

(様式)

会議等速報

令和8年8月19日

件名	第2回次期鹿児島市農林水産業振興プラン策定委員会	作成課	農林水産部 農政総務課
日時	令和8年8月19日(水) 10時00分から11時40分		
場所	市役所みなと大通り別館4階 401会議室		
出席者	鹿児島市農林水産業振興プラン策定委員会 山本会長、能勢副会長、児玉委員、木下委員、井手上委員、宮路委員、重信委員、 迫立委員、仮屋委員、永尾委員、室屋委員、久保委員、米森委員、迫委員、 坂之上委員、石窪委員、黒鳥委員、鎌田委員、宮崎委員 計19名		
市出席者	事務局 農業アドバイザー、農林水産部長、農政総務課長、生産流通課長、 農地整備課長、都市農業センター所長、ほか関係職員 計8名		
会次第	1 開会 2 協議事項 (1) 各会議における意見について (2) 「次期鹿児島市農林水産業振興プラン」素案について 3 その他 パブリックコメント手続きについて 4 閉会		
主な 決定事項	特になし		
主な意見等	2 協議事項 (1) 各会議における意見について (2) 「次期鹿児島市農林水産業振興プラン」素案について ・新規就農者への支援として、研修の受入のみでなく、研修後の就農場所や支援策 についても検討が必要である。 →研修期間中に話し合いを行いながら、品目や就農場所を決めて行く。 ・輸出の促進について、野菜は輸送期間が長いなどの要因から輸出に不向きな面も ある。生産者による輸出の促進ではなく、商社との連携などを模索してはどうか。 →支援方法について情報収集し、今後の取組を検討する。 ・6次産業化や高付加価値化について、生産者は農林水産物の生産で手一杯である ことから、行政が販売やマーケティングの部分で支援する必要がある。 →農林水産業者と商工業者等が連携して商品開発を行う農商工等連携の取組み について、生産者への周知も図っていききたい。 ・林業は、主伐が主体になっており、輸出も拡大している。また、主伐が進む中、 環境保全の観点から再造林が重要である。再造林の際は、花粉症の問題もあるの で、花粉の少ない杉や杉以外の木を植えていく必要がある。 →主伐にシフトしてきており、輸出も含め木材の流通が拡大していくものと認識 している。再造林の際、花粉の少ない樹種の植栽を進めている。 ・新規就農者の就農地は、畑かんなどの施設があるところが多いので、遊休農地を 整備して、そこに誘導していくような取組も必要ではないか →施設がある場所が就農しやすいので、地域計画の話し合いを通じて、そのよう な場所へ新規就農者を誘導できるよう検討していきたい。		

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・高齢化で農業者が減少する中、農業をしてみたいという若い方がいるが、知識がなく困っているため、気軽に相談できる場所を情報発信してほしい。
→SNS等を活用したわかりやすい情報の発信を検討したい。・情報発信により、消費者の意識を変えるよう働きかけてほしい。市内の産地がなくなれば、県外産の農産物の価格が高くなるということを消費者に分かってもらいたい。
→農林水産まつり等における情報発信を検討していきたい。・国産、市内産のものを消費するという教育が重要であると思う。
→食育という言葉もある通り、非常に大切なことであると考えており、農業体験などを実施しているところである。・6次産業化をするにあたり、加工業者との連携が必要になるが、加工業者を募る方法はあるか。
→生産者と加工業者等のマッチング会を実施している。また、農業者や加工業者等の情報を記載した商談シートを作成し、情報共有できる仕組みづくりを始めている。・6次産業化により開発した商品の販売に対する対策はあるか。
→販売については様々な形態があるので、研修会等を通じて生産者に情報提供していきたい。 |
|--|---|